令和8年度全国学力・学習状況調査　置戸町内の状況及び今後の改善方策

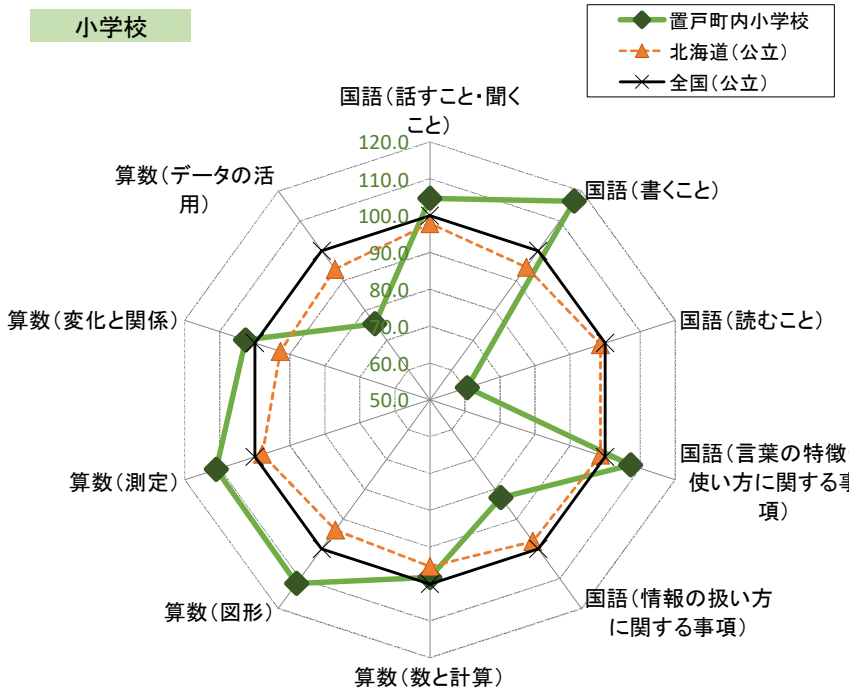
小学校数:1校、児童数:15人　中学校数:1校、生徒数:16人

○　教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校

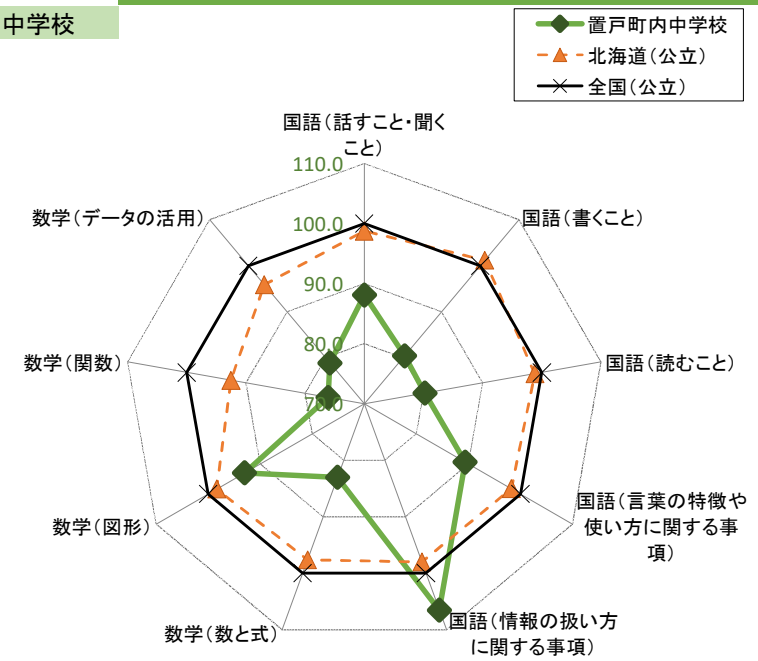


【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校英語は4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
置戸町	59	58	55	47	484
北海道（公立）	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

中学校

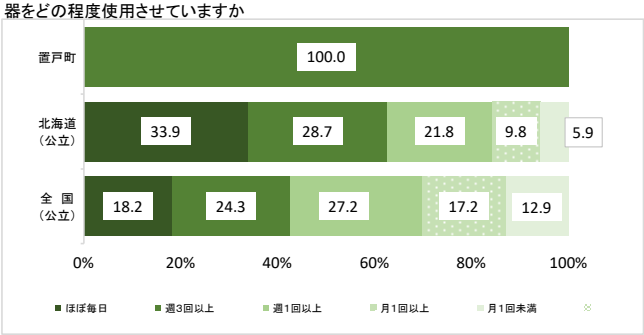


○ 質問調査の状況

小学校

＜学校質問＞

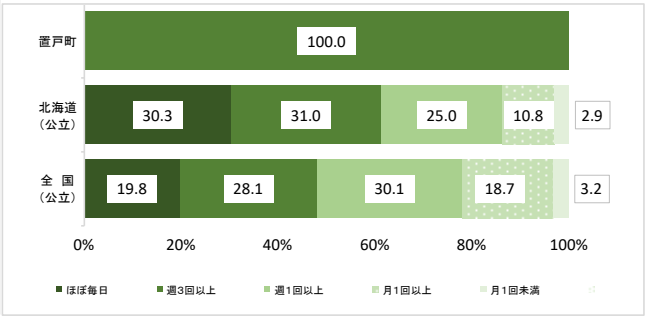
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

＜学校質問＞

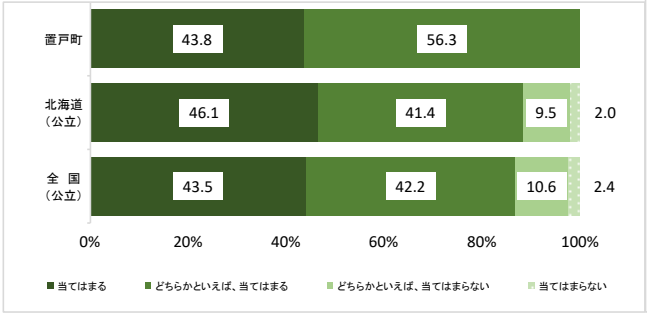
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

＜児童質問＞

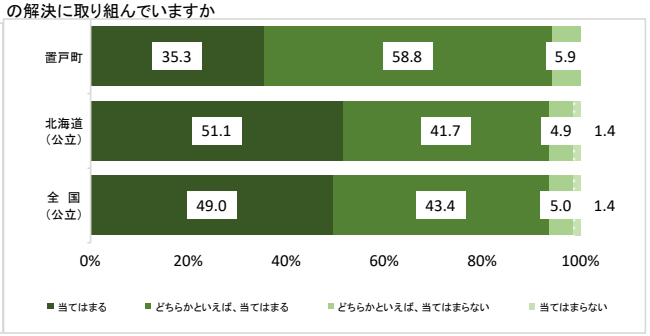
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



中学校

＜生徒質問＞

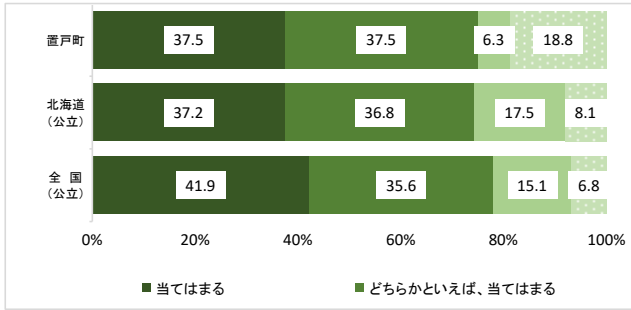
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



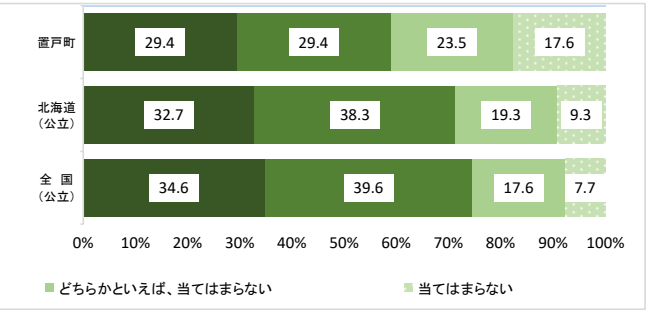
小学校

＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



中学校



○ 調査結果の分析

- 小学校の算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして児童に筋道を立てて説明させる授業を行ったことにより、算数の平均正答率が全国・全道を上回った。また、記述式問題の正答率も全国・全道を上回っており、算数の考え方や理由を自分の言葉で説明する力が備わっていると考えられる。

- 中学校の国語・数学・英語について、今回はすべての科目で正答率が全国・全道を下回っているが、昨年の結果からは正答率が上がっている。また年度により全国平均を大きく上回ることがあるため、生徒の実態にあった指導や、学習に向かう集団の雰囲気が形成されれば、極めて高い学力を発揮できるポテンシャルと指導の土壌が学校にあると考えられる。

- 中学校のすべての科目で正答率が全国・全道を下回っている状況は、単なる学習時間や勉強法の問題ではなく、意識調査における『スマホの長時間利用』や『将来の夢・目標がない（自己肯定感に低さ）』という根深い課題から起因していると考えられる。

○ 今後の改善方策

- 外国語教育について、指導助手2名を小中学校等に派遣し、外国語に慣れ親しむなかで、国際感覚やコミュニケーション能力を養うなど、英語教育の充実を図る。

- 小・中学校共通で、スマホ利用の長さが学習時間不足や睡眠リズムの崩れの根本的な要因となっていると考えられるため、利用ルール作りや、一日15分でも机に向かうなど、スマホを手放し学習や睡眠をとる習慣づけを推進する。

- 小中一貫教育の推進に向け、出前授業の実施や小中学校相互の授業参観を実施するなど連携した取り組みや交流を進める。